

ぼうえい

東海防衛だより

2023
令和5年

冬

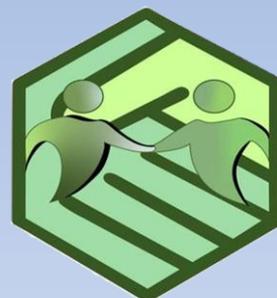


雪の白川郷（岐阜県大野郡白川村）（写真提供：岐阜県白川村役場）

冬号の主な内容

- ◆ 令和5年版防衛白書の地方公共団体等への説明
- ◆ 自衛隊と地方公共団体との連携
- ◆ 在イスラエル国邦人等輸送の実施
- ◆ 防衛力の抜本的強化を支える東海3県の防衛生産・技術基盤
- ◆ 艦艇広報及び自衛隊記念日記念行事・東海防衛支局の政策広報
- ◆ 防衛大臣感謝状贈呈・近畿中部防衛局長感謝状贈呈
- ◆ 「愛三岐のまちから」岐阜県岐阜市
- ◆ 各務原市庁舎整備事業
- ◆ 住宅防音工事の補助限度額の見直し

令和5年春号より、名称を「TOKAI」から「ぼうえい」に変更しました。
みなさまに我が国の防衛について「関心を持っていただきたい」「手に取って
いただきたい」という念いから、この名称にしたものです。



令和5年版防衛白書の地方公共団体等への説明

東海防衛支局は、防衛省・自衛隊の政策及び活動について地方公共団体などの皆様にご理解を深めていただき、地域社会との連携を強化していくために、管轄する愛知、岐阜及び三重3県の自衛隊地方協力本部と連携して、地方公共団体などに防衛白書の説明を行っています。

令和5年版防衛白書は、令和4年12月の国家安全保障戦略など安全保障関連の三文書策定後、初めて刊行された白書であり、防衛力の抜本的強化の必要性やその内容などを詳しく記述しています。

地方公共団体などの皆様からは、中国、北朝鮮及びロシアの軍事動向や米中競争のほか、防衛装備品の生産に携わる企業が多く所在するといった地域特性から、防衛生産・技術基盤及び人的基盤の強化について高い関心が示されました。

当支局としては、今後も様々な機会を通じ、防衛政策に対する理解が深まり、地域社会との連携強化が進むよう取り組んでまいります。

防衛 白書

令和5年版 日本の防衛

防衛省

防衛白書は一般の書店でも販売しているほか、防衛省のホームページに電子版を掲載しています。



防衛白書の概要

令和5年版防衛白書は、令和4年12月の国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画の三文書策定後、初めて刊行される白書であり、我が国を取り巻く安全保障環境の変化や防衛省・自衛隊の活動について、分かりやすくご理解いただけるよう、主として次の6点を重点的又は新たに記述しています。

- ① ロシアによる侵略の継続に対するウクライナによる防衛
- ② 中国、北朝鮮、ロシアの軍事動向、米中競争と台湾をめぐる情勢
- ③ 三文書策定の経緯及び概要
- ④ 防衛力抜本的強化「元年」予算
- ⑤ 情報戦への対応や継戦能力を確保するための持続性・強靱性強化の取組を含む我が国の防衛力の抜本的強化
- ⑥ 防衛生産・技術基盤及び人的基盤の強化に向けた取組

また、厳しさを増す安全保障環境の中で、我が国の強固な防衛意思と堅固な防衛態勢をしっかりと発信すべく、三文書を踏まえた、我が国自身の防衛体制の強化に向けた取組について、内容を強化しています。



【中根 康浩 岡崎市長（右）へ説明】



【大村 秀章 愛知県知事（右）へ説明】



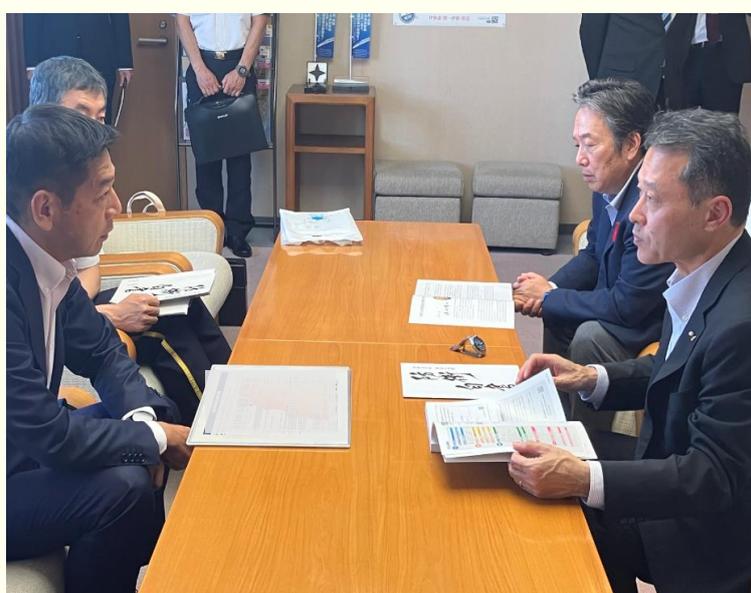
【石田 仁 大垣市長（左）へ説明】



【古田 肇 岐阜県知事（右）へ説明】



【森 智宏 四日市市長（左手前）へ説明】



【一見 勝之 三重県知事（右手前）へ説明】

自衛隊と地方公共団体との連携 防災訓練への自衛隊の参加

防衛省・自衛隊は、各地で実施される防災訓練に参加し、防災関係の各機関や地方公共団体などとの間で、相互の連携強化に努めています。

愛知県・安城市総合防災訓練など

9月1日の防災の日に当たって各地で防災訓練が行われる中、令和5年9月3日、愛知県東部の三河地域では、安城市総合運動公園などにおいて、愛知県と安城市の主催による「令和5年度 愛知県・安城市総合防災訓練」が行われたほか、豊川市、岡崎市、高浜市でも防災訓練が行われました。

愛知県・安城市総合防災訓練は、駿河湾から日向灘を震源域とした大規模な地震が発生し、伊勢湾及び三河湾に大津波警報が発令されたとの想定の下、関係機関の連携と防災意識社会の確立をテーマに行われ、関係省庁、地方公共団体、警察、消防、民間企業など100の関係機関が参加する大規模なもので、防衛省・自衛隊からは、陸上自衛隊第10師団の隷下部隊などが参加しました。



【航空機による吊上げ救助訓練
(写真提供：豊川駐屯地)】

また、豊川市、岡崎市、高浜市の防災訓練には、陸上自衛隊豊川駐屯地に所在する第10特科連隊などが参加しました。

各訓練会場では、自衛隊と関係機関が密接に連携・協力しながら、指揮本部の設営、被害状況偵察、物資空輸、応急送電訓練、倒壊家屋からの救出救助、航空機による吊上げ救助、炊き出しなど、実践的かつ効果的な訓練が行われました。



【左：炊き出し訓練、中央：応急送電訓練、右：倒壊家屋からの救出救助訓練（写真提供：豊川駐屯地）】

第10特科連隊の活動など

陸上自衛隊第10師団隷下の第10特科連隊は、火力戦闘に任ずる部隊であり、愛知県東部の三河地域18市町村の防衛・警備を担任しています。

三河地域において災害が発生した際、同部隊は、いち早く被災地域に駆けつけ、地域の皆様の生命と暮らしを守るために任務を遂行することとなっており、本年6月の三河地域の大雨による災害派遣にも従事しました。

同部隊は、平素から、弛まぬ訓練を行い、即応態勢を維持しつつ、各地の防災訓練にも参加して実践的な訓練を行い、部隊の練度向上と関係機関との連携強化に努めています。

現在、陸上自衛隊は、部隊の編成・装備を見直し、効率化・合理化を徹底した上で、地域の特性に応じた適切な配置を進めています。

豊川駐屯地においては、令和5年度末に第10特科連隊の廃止及び中部方面特科連隊（仮称）新編に伴う1個特科大隊の新編、第10偵察戦闘大隊（仮称）の新編を予定しており、引き続き、地域の皆様の安全に万全を期すこととしています。

大規模津波防災総合訓練

令和5年11月11日、名古屋港カトーデンふ頭において、国土交通省、愛知県、名古屋市及び名古屋港管理組合主催による「令和5年度 大規模津波防災総合訓練」が行われました。

同訓練は、津波被害の軽減と津波から身を守る知識の普及・啓発を目的に67の団体が参加する大規模なもので、南海トラフ巨大地震に伴う津波の襲来を想定した陸・海・空にわたる本番さながらの訓練が行われました。

防衛省・自衛隊からは、陸上自衛隊第10師団、海上自衛隊横須賀地方隊、航空自衛隊中部航空方面隊などが参加し、陸上自衛隊による関係機関と連携した倒壊家屋からの救助・救出、道路啓開・緊急車

両走行訓練、航空自衛隊ヘリコプターによる孤立者の捜索救助訓練、海上自衛隊艦艇による物資等海上輸送訓練など、実践的かつ効果的な訓練が行われました。



【物資等海上輸送訓練】

東海防衛支局は、大規模災害が発生した際、自衛隊などによる救助活動の円滑な実施のため、各種の支援業務と地方公共団体などとの連絡調整業務を担当しており、管轄内の地方公共団体が行う防災訓練などに参加し、相互の関係構築及び強化に努めています。

自衛隊の活動

在イスラエル国邦人等輸送の実施

防衛省においては、イスラエル・パレスチナの情勢に鑑み、令和5年10月13日、外務大臣からの要請を受け、防衛大臣が航空自衛隊の輸送機をジブチ共和国まで移動させ、待機することを命じました。

本命令を受け、航空支援集団司令官（航空自衛隊府中基地）を指揮官とする在イスラエル国邦人等輸送統合任務部隊が編成され、速やかに所要の準備を整えるため、翌14日航空自衛隊小牧基地（愛知県小牧市）からKC-767空中給油・輸送機1機が出発しました。

10月21日、KC-767空中給油・輸送機は、イスラエル国から邦人など83名を乗せ、無事羽田空港に到着しました。また、同月24日にはKC-767空中給油・輸送機1機が再び小牧基地を出発し、11月3日に邦人など46名を乗せ無事羽田空港に到着しました。



【小牧基地を出発する隊員（写真提供：小牧基地）】



【KC-767空中給油・輸送機】

防衛力の抜本的強化を支える 東海3県の防衛生産・技術基盤

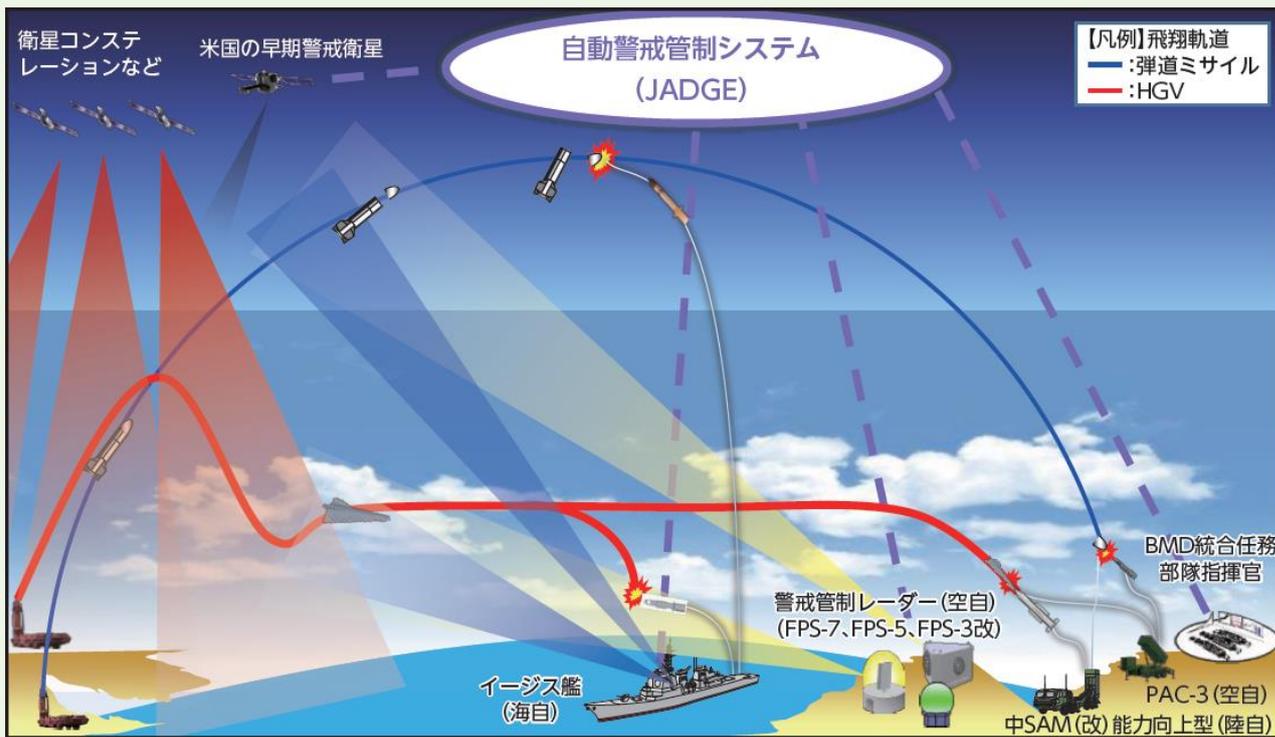
② 統合防空ミサイル防衛能力

今号では我が国の防衛上必要な7つの機能・能力のうち「統合防空ミサイル防衛能力」についてご説明し、その装備品である迎撃ミサイルの契約状況の一部をご紹介します。

また、前号で紹介した「スタンド・オフ防衛能力」などを活用する「反撃能力」についてご説明します。

統合防空ミサイル防衛能力とは

海に囲まれる我が国は、空から飛来する脅威への対応が非常に重要です。相手からの我が国に対するミサイル攻撃については、ミサイル防衛システムを用いて公海及び我が国の領域の上空で我が国に向けて飛来するミサイルを迎撃します。現状においては、我が国全域を防護するためのイージス艦及び拠点防護のため全国各地に分散配置されているペトリオット（PAC-3）を状況に応じて機動・展開して対応しています。



【統合防空ミサイル防衛（迎撃部分）のイメージ（「令和5年版防衛白書」より）】

統合防空ミサイル防衛能力強化の取組

将来の弾道ミサイルの脅威に対処するため、イージス艦に搭載するBMD用能力向上型迎撃ミサイル（SM-3ブロックIIA）を日米共同で開発し、順次取得を進めています。SM-3ブロックIIAは、SM-3ブロックIAと比較して、迎撃可能高度や防護範囲が拡大するとともに、撃破能力が向上し、さらに同時対処能力についても向上しています。また、イージス艦の能力向上と増勢により継続的な対処能力を強化するため、イージス・システム搭載艦を建造します。

地对空誘導弾ペトリオットPAC-3についても、能力向上型であるPAC-3MSE（※1）の導入を進めており、迎撃高度は十数キロから数十キロへと延伸することとなり、従来のPAC-3と比べ、おおむね2倍以上に防護範囲（面積）が拡大します。さらに、ペトリオット・システムを改修し、新型レーダー（LTAMDS（※2））を導入することで、PAC-3MSEによる極超音速滑空兵器（HGV（※3））などへの対処能力を向上させる計画です。

※1 PAC-3MSE：PAC-3（Patriot Advanced Capability-3）の能力向上型（Missile Segment Enhancement）の略
 ※2 LTAMDS（エルタムズ）：極超音速滑空兵器（HGV）などの将来脅威対処のために開発された低層防空用射撃管制レーダー（Lower Tier Air Missile Defense Sensor）の略

SM-3ブロックII Aは日米で共同生産しFMS（※4）により取得・配備を進めており、PAC-3 MSEについては、平成28年度から三菱重工（株）を主契約者として小牧北工場において国内生産いたします。

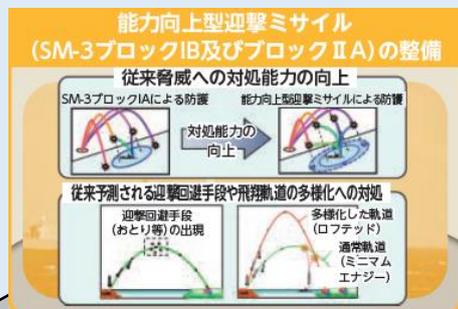


【SM-3ブロックII A発射試験（「令和5年版防衛白書」より）】

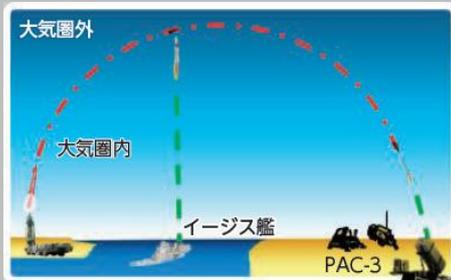


【パトリオットPAC-3MSE（「防衛省HP」より）】

統合防空ミサイル防衛能力の迎撃ミサイル（SM-3ブロックII A、PAC-3 MSE）



・防護範囲の拡大、撃破能力、対処能力の向上

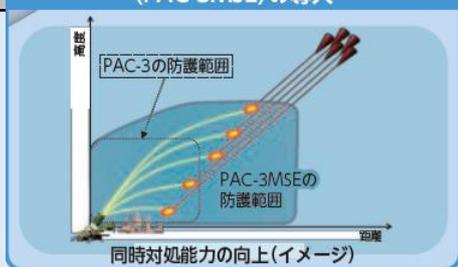


イージス艦の能力向上及び増勢



・継続的な対処能力の強化

能力向上型PAC-3ミサイル (PAC-3MSE)の導入



・防護範囲の拡大、同時対処能力の向上

【弾道ミサイル対処能力向上のための主な取組（「令和5年版防衛白書」より）】

反撃能力（イメージ図）

- ① 我が国に対する武力攻撃が発生し、その手段として弾道ミサイル等による攻撃が行われた場合、ミサイル防衛網により、飛来するミサイルを防ぎつつ、
 - ② 「武力の行使」の三要件に基づき、そのような攻撃を防ぐのにやむを得ない必要最小限度の措置として、相手からの更なる武力攻撃を防ぐために我が国から有効な反撃を相手に加える
- こうした有効な反撃を加える能力（反撃能力）を持つことにより、武力攻撃そのものを抑止する。



【反撃能力（イメージ図）（「防衛省HP」より）】

反撃能力とは

我が国周辺の軍事動向から、ミサイル攻撃が現実の脅威となる中、ミサイル防衛能力の強化だけでは、完全に対応することは難しくなりつつあります。そのため、ミサイル防衛により飛来するミサイルを防ぎつつ、更なる攻撃を防ぐため、我が国から有効な反撃を相手に加える能力、すなわち反撃能力を保有する必要があります。こうすることで、我が国にミサイル攻撃などを試みようとする相手の計算を複雑化させ、我が国を攻撃することは簡単ではない、攻撃することはやめておこうと思わせることができます。

※3 HGV：極超音速滑空兵器（Hypersonic Glide Vehicle）の略

※4 FMS：有償援助調達（Foreign Military Sales）の略

艦艇広報及び自衛隊記念日記念行事 東海防衛支局の政策広報

防衛省・自衛隊の様々な活動は、国民一人一人、そして、地方公共団体などの理解と協力があったてはじめて可能となります。

自衛隊では、自衛隊に対する理解を深めていただくため、自衛隊記念日に記念行事や航空祭などを開催し、施設を一般の方々に開放して、地域の皆様と交流を図っています。

東海3県では、令和5年9月23日及び24日に海上自衛隊砕氷艦「しらせ」の一般公開（愛知県三河蒲郡埠頭）、10月15日に陸上自衛隊第10師団創立61周年記念行事・守山駐屯地創設64周年記念行事（愛知県名古屋市長古屋市）、11月3日に陸上自衛隊豊川駐屯地創立73周年記念行事（愛知県豊川市）、同月4日に陸上自衛隊明野駐屯地開設68周年・航空学校創立71周年記念行事（三重県伊勢市）、同月12日に航空自衛隊岐阜基地航空祭2023（岐阜県各務原市）が行われました。

それぞれの会場では、砕氷艦「しらせ」への乗艦、戦車などによる模擬訓練、V-22オスプレイなどの装備品展示やブルーインパルスの展示飛行などが行われ、訪れた方々は、実際に装備品を見学したり、写真撮影をするなど大いに楽しまれた様子でした。



【砕氷艦「しらせ」一般公開の様子】



【明野駐屯地及び航空学校記念行事の様子
（陸上自衛隊 V-22オスプレイ）】



【第10師団及び守山駐屯地記念行事
の様子（陸上自衛隊 74式戦車）】



【岐阜基地航空祭の様子（ブルーインパルス展示飛行）】

東海防衛支局の政策広報

東海防衛支局では、防衛政策や自衛隊の活動などについて、広く地域の皆様にご理解を深めていただくため、自衛隊記念日記念行事などの機会を捉えて政策広報を行っています。

先にご紹介した、砕氷艦「しらせ」の一般公開、第10師団及び守山駐屯地記念行事、豊川駐屯地記念行事、明野駐屯地及び航空学校記念行事、岐阜基地航空祭において、広報ブースを設置し、防衛力の抜本的強化の必要性をご理解いただけるよう、「なぜ、いま防衛力の抜本的強化が必要なのか」の解説動画の上映やパネル展示を行うとともに、国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画や令和5年版防衛白書の各ポイントについてご説明しました。

また、防衛力整備計画に関するクイズを行い、参加された方には砕氷艦「しらせ」やブルーインパルスなどの缶バッジをお持ち帰りいただきました。

各地の広報ブースでは、多くの方々にお立ち寄りいただき、用意していた1千から4千部の広報資料をお配りし、訪れた方からは、「防衛力整備計画に興味を持った」「自衛隊の現状がよくわかった」などの感想が聞かれました。

当支局では、今後も、自衛隊記念日記念行事などにおいて、政策広報を行いますので、ご来場の際には是非お立ち寄りください。



【東海防衛支局の政策広報の様子】

自衛隊のイベント情報

- 令和6年1～3月 海自艦艇寄港（四日市市、蒲郡市）、第10師団音楽まつり、小牧基地航空祭 など
- ※ 11月27日現在の情報です。詳細は、各自衛隊や地方協力本部のHPなどをご確認ください。

防衛大臣感謝状贈呈
近畿中部防衛局長感謝状贈呈

令和5年11月1日の自衛隊記念日に際して、次の地方公共団体の首長の方々に防衛大臣感謝状及び近畿中部防衛局長感謝状を贈呈いたしました。

各氏は、首長に就任されてから、多年にわたり防衛省・自衛隊に対する理解と強力なリーダーシップにより、防衛施設の安定的な使用に大きく貢献されました。改めて、ここに深く感謝の意を表します。

防衛大臣感謝状

浅野 健司 様 (岐阜県各務原市長)

鈴木 健一 様 (三重県伊勢市長)

近畿中部防衛局長感謝状

河村 たかし 様 (愛知県名古屋市長)

辻村 修一 様 (三重県玉城町長)

前葉 泰幸 様 (三重県津市長)

(五十音順)

防衛大臣感謝状贈呈



【鈴木 健一 伊勢市長 (左)】

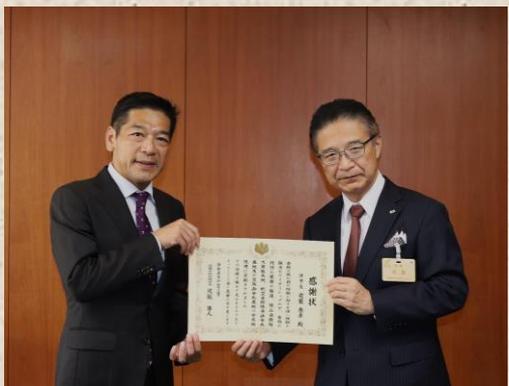


【贈呈式で挨拶する木原防衛大臣】



【浅野 健司 各務原市長 (左)】

近畿中部防衛局長感謝状贈呈



【前葉 泰幸 津市長 (右)】

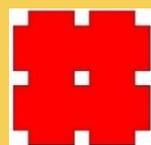


【辻村 修一 玉城町長 (左)】



【河村 たかし 名古屋市長 (左)】

「愛三岐の
まちから」



岐阜県 岐阜市



うーたん



しばし まさなお
柴橋 正直 岐阜市長

「人がつながる 創造が生まれる
しなやかさのあるまち」

岐阜県の中南部に位置し、名古屋から電車でわずか20分の県都岐阜市は、斎藤道三公が礎を築き、織田信長公が天下統一の拠点とした歴史や伝統文化が今も息づく戦国城下まちです。

市のシンボルとして金華山にそびえ、戦国時代の石垣が残る岐阜城や1300年以上受け継がれる「ぎふ長良川の鵜飼」には、毎年、全国から多くの方に足を運んでいただいています。

この岐阜城が位置する岐阜公園エリアから岐阜駅周辺は、都市全体が持続発展するための重要なセンターゾーンとして、官民連携によるさまざまな施策が展開されており、柳ヶ瀬エリアにおいては、再開発ビル「柳ヶ瀬グラスル35」の完成やセントラルパークとしてリニューアル整備された「金公園」など、新たなにぎわいが生まれています。



【柳ヶ瀬グラスル35と金公園】



【宵の岐阜城】

岐阜市では、新型コロナウイルス感染症の発生など、社会情勢の劇的な変化に伴い、令和4年2月に新たなまちづくりの総合的な方針である、「岐阜市未来のまちづくり構想」を策定しました。

本構想には、「人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち」を未来像として掲げ、その実現に向け、人やコミュニティを大切にする「オール岐阜のまちづくり」と「シビックプライドの醸成」、また、新たな価値を生み出す「DXと脱炭素化」の推進、そして、時代や社会の変化にしなやかに対応し、「持続可能で選ばれるまち」を実現するという4つをまちづくりの基本的な考え方として、「教育・子育て」をはじめとする、5つの分野ごとのまちづくりの方向性を掲げ、未来を見据えた施策を展開していくこととしています。

自衛隊との関わり

岐阜市は、岐阜基地周辺の各務原市、岐南町及び笠松町とともに2市2町による岐阜基地周辺市町村連絡協議会を組織し、岐阜基地及び東海防衛支局に対する要望活動などを通じた、自衛隊との情報共有に努めています。

また、例年、安全で安心して暮らせる地域社会の実現を目的に開催しております、「防災フェア」においては、自衛隊の皆様の協力を受け、災害用車両の展示などを行い、自衛隊活動や防災についての理解を深める機会としています。今後も防災意識の普及啓発のほか、継続して自衛隊との緊密な連携を図っていきたいと考えております。

各務原市庁舎整備事業

民生安定施設整備事業（防音助成）

旧各務原市庁舎は、昭和48年3月の竣工以来、行政運営の中枢として、また市民の安全・安心を守る防災拠点として、極めて重要な役割を担ってきましたが、竣工後50年近くが経過し、建物や設備の老朽化が著しく、耐震性にも問題があったことから、各務原市は、新たに庁舎を建て替えることとしました。

同市は、令和元年8月に工事に着手し、令和3年8月に高層棟が完成、同年9月21日から高層棟で業務を開始しました。その後、庁舎の解体撤去、低層棟の建設及び駐車場などの外構工事が行われ、庁舎全体が完成しました。

令和5年11月4日には、庁舎完成記念式典が執り行われ、防衛省地方協力局から大和局長及び信太地域社会協力総括課長、東海防衛支局から宮原支局長が出席しました。



【完成記念式典で挨拶される浅野健司
各務原市長（写真提供：各務原市）】



【完成記念式典の様子】

式典では、浅野健司各務原市長の挨拶、武藤容治衆議院議員及び古田肇岐阜県知事の祝辞のほか、ピアノコンサートも行われるなど、多数の方々が庁舎の完成を祝福しました。

当支局は、同市の庁舎整備事業に対し、航空自衛隊岐阜飛行場における航空機の離着陸に伴う騒音の障害の緩和に資するよう、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づき民生安定施設整備事業（防音助成）として補助金を交付しました。



【各務原市庁舎高層棟（写真提供：各務原市）】



【各務原市庁舎全景（写真提供：各務原市）】

住宅防音工事の補助限度額の見直し

航空自衛隊岐阜飛行場周辺では、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律（昭和49年法律第101号）の第4条等に基づき、航空機による騒音の障害を防止又は軽減するために、皆様方がお住いの住宅に対して防音工事の助成を行っていますが、令和5年9月、住宅防音工事（機能復旧工事を除く。）の補助限度額について見直しを行いました。

※見直しの対象は、一挙防音工事、追加防音工事、防音区画改善工事及び外郭防音工事が該当します。

補助対象経費について

補助金の交付の対象とする経費は表の限度額を超えない範囲で交付されます。

工事費の限度額（変更前）

工事室数	80W以上	75W以上80W未満
1室	2,723千円	1,675千円
2室	4,503千円	2,723千円
3室	6,232千円	3,456千円
4室	7,803千円	4,190千円
5室以上	8,956千円	4,818千円

※防音区画改善工事又は外郭防音工事を実施する場合で、居室以外の区画を含めて工事する場合は、上記表のそれぞれの額に1,675千円を加算できます。



工事費の限度額（変更後）

工事室数	80W以上	75W以上80W未満
1室	4,448千円	2,930千円
2室	6,296千円	3,853千円
3室	8,083千円	4,958千円
4室	9,905千円	5,866千円
5室以上	11,546千円	6,776千円

※防音区画改善工事又は外郭防音工事を実施する場合で、居室以外の区画を含めて工事する場合は、上記表のそれぞれの額に2,930千円を加算できます。

※石綿の使用が明らかな場合における石綿の撤去を伴う防音工事に係る額は、上記表のそれぞれの額に石綿の撤去に係る額を加算できます。

【お問い合わせ先】

東海防衛支局防音対策課 住宅防音係

電話：052-952-8226

ホームページアドレス：<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>



採用関連のご案内

東海防衛支局では、防衛省職員採用に関する説明会の開催や、人事院国家公務員セミナーにおいても説明会を実施しています。国家公務員希望の方で防衛省に興味のある方は、是非ご参加ください。

防衛省職員採用に関する説明会では、防衛省全体に関する説明や東海北陸地区にある防衛省4機関（東海防衛支局、陸上自衛隊、航空自衛隊、防衛装備庁）の説明を行っています。事前申し込みが必要ですので、詳しくは東海防衛支局のホームページ又は防衛省のホームページをご確認ください。

今後の予定

令和6年1月20日（土） 人事院国家公務員セミナー参加予定

（場所：金沢勤労者プラザ）

令和6年2月17日（土） 人事院各機関合同業務説明会参加予定

（場所：愛知大学名古屋キャンパス）

令和6年2月中旬 国家行政・官庁ツアー（場所：東海防衛支局）

※人事院のセミナーについては、人事院のホームページをご確認ください。



東海防衛支局ホームページ：「採用情報」

<https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/saiyou/saiyou.html>

お問合せ先：東海防衛支局 総務課 052-952-8221



小型無人機等飛行禁止法に基づく対象防衛関係施設の指定

令和5年9月に、陸上自衛隊春日井駐屯地、陸上自衛隊久居駐屯地、航空自衛隊小牧基地笠原訓練場及び航空自衛隊高蔵寺分屯基地飛地地区が、新たに小型無人機等飛行禁止法に基づく対象防衛関係施設に指定されましたのでお知らせします。

令和5年9月26日告示（同年10月6日施行）

施設名	所在地	施設管理者	問い合わせ先
陸上自衛隊 春日井駐屯地	愛知県春日井市西山町 無番地	春日井駐屯地司令	0568-81-7183
陸上自衛隊 久居駐屯地	三重県津市久居新町 975番地	久居駐屯地司令	0592-55-3133
航空自衛隊 小牧基地笠原訓練場	岐阜県多治見市笠原町 字深山1番9	小牧基地司令	0568-76-2191
航空自衛隊 高蔵寺分屯基地飛地地区	愛知県春日井市木附町 無番地	高蔵寺分屯基地司令	0568-51-0265

詳しくは、防衛省ホームページをご覧ください。

<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.html>



発行：東海防衛支局広報誌編集委員会

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館 電話052-952-8212

2023年（令和5年）冬号（通巻第57号） <https://www.mod.go.jp/rdb/tokai/>

